



NIPPON BEARING

## 3月30日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 2035年のロボットの将来市場予測は、2020年の何倍？

- ① 1.2倍    ② 2倍    ③ 3倍

【答え】 ③ 3倍

【解説】

ロボットと聞いて、真っ先に何を思い浮かべますか？

人間や動物の形をしたロボットや、工場で生産を支えているロボットアームなど。

形の違いでロボットを想像した人、活躍している分野を想像した人、ロボットのイメージも時代と共に多種多様になってきました。

2035年のロボット市場は、2020年の3倍以上、9.7兆円に達すると予測されています。

これまで普及してきた製造分野での産業用ロボットのさらなる増加に加え、今後はサービス分野での伸び率が大きくなると考えられています。

サービス分野は多岐にわたるため、そこで活躍するロボットの種類もさまざまです。

例えば、介護や福祉の分野。介護する人の負担を軽減するロボットとして、ベッドから車いすへの移乗を支援するロボットがあります。また、介護者自身が装着することで、足腰を支え歩行を助ける自立支援型のロボットもあります。

他にも、医療分野で活躍している手術支援ロボットや、防犯や家族のための見守りロボットなど、ここ数年で知名度が上がってきたロボットも多数あります。

高度経済成長期の《三種の神器》のように、《ロボット》も数年～数十年後には、当たり前のように私たちの生活に溶け込んでいる気がしてなりません。

【企画・協力：榊学研メソッド】